



ブックトーク祭りに参加して

静岡県読み聞かせネットワーク会長
(有)まるか勝山商店代表取締役 勝山 高

去る8月2日と3日の2日間にわたって、東京子ども図書館で「ブックトーク祭り」がオンラインで開催されました。両日とも午前と午後の2回、各1時間半の枠で行われました。2日の午後の部は、「この50年、わたしのこの一冊!」をテーマとして、東京子ども図書館の職員の方とゲストによる紹介リレー形式での企画。縁あってお誘いいただいたので、職員の皆様とご一緒にリレーを楽しみました。

ブックトークは、一つのテーマに沿って様々なジャンルから選書したものを紹介していきますが、紹介リレーでは1970年代から2020年代まで10年ごとに区切って7人が私の一冊について話しました。ジャンルも童話・伝記・フィクション・ノンフィクションなど、バラエティーに富んだ内容。私は1976年に上梓された『台風島の島に生きる—石垣島の先駆者 岩崎卓爾の生涯』（谷信介著 偕成社）を取り上げました。この本は、明治31年に石垣島の測候所に赴任し、八重山諸島の石垣島で気象観測に生涯をささげた「岩崎卓爾」の一生を描いた伝記です。

シナリオを作りながら感じたのは、まず、自分自身がその本を好きなこと、その好きな気持ちを自分の言葉で楽しく紹介することでした。伝記はほぼ時系列で被伝者の足跡をたどるので、フィクションのような起承転結に基づいたポイントではなく、自分が共感したところや魅入ったところに焦点をあてました。シナリオを書いていると、どうしてもあれもこれもと欲張ってしまうのですが、それ

だと平面的な紹介になってしまい、聞き手に残らないように思います。自分の思いを言葉にすると同時に、思い切って言葉を削っていく作業が肝心なのかな、と考えました。また、シナリオでは読み原稿として書いてもあくまで文章なので、実際に声に出して何度も読んでみて違和感の有無をチェックすることも大切です。

さらに、実演では原稿を読まずに、自分の言葉で話すことも大事だと思いました。たった一冊でしたが、多くのことを学んだ一冊でした。

東京子ども図書館は、今年で財団設立50周年を迎えられます。4つの家庭文庫から始まった子どもの本と読書を専門とする私立の図書館として知られています。児童室に訪れる子どもたちへ直接サービスを行う一方、子どもと本を結ぶ多くの方のために、資料室の運営や出版事業、講座の開催などを行っています。さらに児童図書館員の育成に注力しており、子どもと本の幸せな出会いを願う多くの人々の拠りどころとなっています。

どのような時代になっても伝えていきたい世界がそこにあります。次世代にバトンを渡していく責務が大人にあります。一冊の本から広がる無限の世界をつなぎ、その世界を共有する喜びを実感したリレーでした。

(ブックトーク祭りのプログラムは東京子ども図書館のホームページをご覧ください)



静岡県立図書館について 新県知事鈴木康友氏のご回答

当会では、図書館にまつわるお考えを知りたく、4月の知事選候補者に公開質問状をお届けしました。当選された鈴木康友氏の回答をご紹介します。長年の県民の願いだった「新静岡県立図書館」についても、鈴木氏は「これまでの経過を踏まえ整備計画に基づき取り組んでいく」という心強いお考えを示して下さいました。今後も図書館政策へのご理解とご支援を期待したいと思います。（紙面の都合上、質問は文言を簡略化し、公文書館設置についての質問と回答は割愛しました。詳しくは当会のHPをご参照下さい。）

「新県立中央図書館整備計画」は、新たな生活様式の時代を見据えた県立図書館の基本的機能と市町立図書館を支援する県立図書館の役割が良く整理された計画です。関連して次のことについて伺います。

その1. 「新県立中央図書館整備計画」を尊重し、この内容に添って計画を推進して頂けますか？

新県立中央図書館については、これまで議論されてきた経過を踏まえ、整備計画に基づき取り組んでいきます。

その2. 運営形態は「整備計画」に明記されているように、指定管理者等の外部委託ではなく県教育委員会による直営を維持しますか。又その理由もお聞かせ下さい。

管理運営方針に示されているとおり、中央図書館に求められる根幹業務については、高い専門性や市町図書館の支援などが求められることから県の直営とします。定型業務や新たに求められる機能については民間のノウハウを活かし、県民のみなさまにより良いサービスを提供できる仕組みとします。

その3. 新県立図書館には多様な県民の知的ニーズに対応すると共に、県内市町立図書館を支援し静岡の発展に寄与する知のインフラとして、県立図書館の資料収集方針を満たす資料費が必要かと思えます。継続的に資料費を確保して頂けますか。

知のインフラにふさわしい資料費の確保に努めます。

その4. 新県立図書館には、「多様な機関と連携して情報・知識を提供し、人々の多彩な交流を育み、静岡の新しい文化を創造する礎となる新しいタイプの図書館として生まれ変わる」ことが期待されています。この実現のために引き続き図書館専門職としての司書の採用や増員が望まれます。専門職(司書)の採用・養成について公募採用、計画的な採用、採用人数などのお考えがありましたらお聞かせください。

図書館の枠を超え「学び・交流し・創造する場」として、デジタル技術の活用はもちろん、多様な人材交流の場、あるいは産学官連携の場などイノベーションを生み出す拠点としていきたいと考えます。現時点では具体的な計画は持ち合わせていませんが、今後しっかり検証してまいりたいと考えています。

「静岡市の公文書管理」について市政出前講座

2024年7月9日(火)の夜、アイセル21を会場に参加人数12名で総務課の担当職員2名から静岡市の状況を伺いました。スライドによる丁寧な説明で現状はよく分かりました。「どう使うか? 今後公文書館が出来るか?」については、なかなか厳しい状況と感じました。公文書管理については、今後も引き続き注視していきたいと思えます。

図書館からこんにちは

藁科図書館がリニューアル!

静岡市立藁科図書館 館長 田中 邦子



藁科図書館は静岡市葵区の西北地域、安倍川の支流である藁科川沿いに建つ、蔵書数約9万冊の小さな地域館です。生涯学習センターとの複合施設として平成元年に開館して約35年が経過し、老朽化に伴う設備機器等の更新が必要となったため、令和5年5月から休館して大規模改修を行いました。

リニューアルにあたってのコンセプトは『どの世代にとっても利用しやすく、藁科地域の良さが感じられる図書館』。照明のLED化やトイレの洋式化、電気設備等の機器更新の他に、藁科川の風景を楽しみながら読書ができるカウンター読書席を新設するなど、藁科地域の良さを生かした館内となりました。



藁科地域のすべての世代にとって利用しやすく居心地の良い図書館にするため、自習も可と明記した個人キャレル席を用意し、館内全体を蓋つき飲み物の持ち込み可としました。館内サインはユニバーサルデザインを意識したフォ

ントや色使いにし、育児に関する資料や子ども向けのCDは児童コーナーに、高齢者の利用が多い文庫、大活字図書、朗読CDはまとめて同じ場所に配置するなどの工夫も行っていきます。

令和6年4月20日のリニューアルオープン後は記念イベント『Night Library ~図書館に泊まろう!~』の開催や地域の民話にまつわる公式キャラクターを作成し、生涯学習センターとの共催事業にも力を入れています。皆様ぜひ藁科図書館にお越しください。お待ちしております!



藁科公式キャラクター「わらしじ」です!



—静岡県図書館交流会の報告—

「図書館とともに歩む

~図書館を支えるために 支援のあり方を考える~」



静岡図書館友の会運営委員 増田 曜子

第25回静岡県図書館交流会は、標記をテーマの基、6月29日(土)静岡県立中央図書館を会場に開催されました。

交流会は、実行委員長の南雲初義氏による開催挨拶で始まり、続いて来賓としてお越しいただいた県立中央図書館長の高橋健二様から、会の開催を祝福するご挨拶をいただきました。その後、アーツカウンシルしずおか特別相談員(静岡文化財団)の平野雅彦氏と元県立美術館友の会事務局長の田中文雄氏による、講演とトークセッションが行われました。

平野氏からは、「地域芸術祭からみるボランティアの報告」と題して、島田市と川根本町の2つの市町(4エリア)で行われている「地域芸術祭」の事例を基に、ボランティアの意義やその活動の有効性について報告が行われました。次に田中氏からは、「県立美術館友の会・ボランティア」と題して、友の

会とボランティアの違いや美術館運営におけるボランティアの重要性や期待される役割について報告がありました。

その後、それぞれの講演内容を基にお二人によるトークセッションが行われました。活動のフィールドが異なるお二人の豊富な事例やトークには説得力があり、ボランティアやボランティア活動のみならず図書館のこと、地域との関わり方などについても考えさせられる奥深い内容でした。

講演会終了後には参加者25名のうち半数以上の方からアンケートが寄せられ、「ボランティアというテーマについて、こんなにも深く、多角的な視点で考えられたことは新しい経験であり大変意義深いことでした」など、お二人の講演内容やトークに感銘を受けられた感想を多くいただくことができ、有意義な交流会となりました。

01

2024 しずとしよフェスタ

ようかいから学^{まな ぼうさい}BOSAI ～こわいも時に役にたつ～

「妖怪」と「防災」って関係があるの？ 図書館でいろいろ学んでみよう!

今年のしずとしよフェスタでは、静岡大学教育学部藤井基貴研究室のみなさんによるワークショップを開催します!

日時 2024年10月27日(日)13:00～14:30

場所 静岡市立中央図書館 2階ホール

定員 30人(小学3年生～)

申込み 10月9日(水) 9:30～

「しずとしよフェスタ」チラシに掲載のQRコード、
または電話、直接中央図書館カウンターまで
(先着順)



そのほか、おはなし会・フィルムコートかけ体験*・
玄関特集展示(フォトスポット)・図書館ツアー*・
デイジー図書試聴体験・スタンプラリーと盛りだ
くさんの内容です。

多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

詳細は、チラシをご覧ください。

また、*のイベントは、事前申し込みが必要です。



02

2025年度静岡図書館友の会総会 記念講演会

『『きけ わだつみのこえ』とふたりの画学生—図書館と美術館をつなぐ』

講師 静岡県立美術館長 木下直之氏

日時 2025年3月9日(日) 14:30～16:00

場所 札の辻クロスホール 静岡市葵区呉服町1丁目30
静岡駅から徒歩10分

詳細は、決まりましたらHPにてお知らせします。

しずともHP(<http://shizutomo.jp>)はこちらから→



静岡図書館友の会会報 No.32 2024.9
静岡図書館友の会代表代行 山下多津美
Eメール: sizutomo2008@yahoo.co.jp
HP: <http://shizutomo.jp>
会員数: 223人(2024年9月1日現在)

編集後記
暑い夏でした.....と書き始め、はたと気づいて昨年の編集後記を見直したところ、思った通り同じ書き出しでした(笑)。でも、今年は人生で初めて気温40度を経験しました。年々、暑さが増しているように感じます。(Y)